

平成30年度 第3回伊勢崎市立境采女小学校運営協議会 会議録

日時：平成30年11月5日（月）13:00～15:30

会場：境采女小学校図書室

出席委員：田島（会長）、柳澤（副会長）、新木、南雲、  
宮田、大谷、三澤、廣川、三木、川田、細谷、新井

欠席者：なし

事務局：大川（生涯学習課係長）、  
石原（教頭）、笠原（教務主任）

1 開会（13:00～13:15）

会長挨拶

○田島：よろしくお願いいたします。

日程説明（教頭より）

2 授業参観（第5校時 13:15～13:45）

3 班別協議（13:50～14:25）

【広報班：柳原、三木、宮田、新井】

- ・前回提案したテーマに沿って原稿を書いていた。今後の日程は資料のとおり。広報の発行について時期や内容の変更について若干の変更があるが、ご協力いただきたい。

【文化教養班：三澤、大谷、細谷、石原】

- ・地域の人材コーディネーターとして、養蚕の仕事から野菜農家に転業した方に連絡をとり、3年生の総合的な学習の時間の講師を依頼することができた。
- ・野鳥の会の会長や裏千家の師匠、古墳に詳しい方など、地域の人材はたくさんいらっしゃるのので、授業の内容で講師等の必要があれば依頼することもできる。
- ・公民館の図書室を児童の居場所として活用することもできる。そのためのニーズの把握や利用にあたってのルールづくりが、今後の課題。
- ・公民館掲示板へ児童と公民館利用者をつなぐ「一緒に○○しませんか」コーナーを設置したい。
- ・委員会の時間に図書委員会の児童と読み聞かせボランティアの顔合わせをして、交流のきっかけを作りたい。

【健康安全班：新木、南雲、廣川、川田、笠原】

- ・小中合同あいさつ運動（11月19日、20日）に参加予定。集合場所を確認した。
- ・子どもセーフティーネットの活動を紹介したい。「インターネットの危険性」について、廣川委員からの講話を6年生と保護者向けに実施したい。

4 小中連携研修への参加（14：30～15：10）

5 まとめ・連絡

(1) 小中連携研修に参加して

- 田島：(生徒指導分科会では)小学生は覇気が感じられないという意見があった。
- 新木：(道徳分科会では)教科化にどのように対応しているのか、興味があった。参加してみて、評価の仕方やノート指導の工夫がわかった。子どもに考えさせる指導をしていただいていたありがたい。
- 新木：(授業参観では)1年生の集中力をどのようにして持続させればよいのか、指導の難しさを感じた。
- 宮田：(道徳分科会では)教科書に配列してあるとおりに授業を行うのか、采女地区の育てたい子ども像に合わせて授業を行っているのかを知りたい。
- 新井：現在は、県が作成した郷土資料については差し換えている。今後もどの点に重点を置いて実施するのか、采女小学校の子どもたちの実態に合わせて年間指導計画を見直していきたい。
- 柳原：(生徒指導分科会では)挨拶の指導に関しては、小さい学年のうちからしっかり指導していただいていたありがたい。采女地区の子どもが積極性に欠けているのではという意見もあるが、学校では積極定期的に挨拶してくれているので、引き続きご指導いただきたい。
- 細谷：(英語分科会では)小学校では、授業の中にゲーム的要素を取り入れた活動をしている。中学校の先生からは、そのような指導をしていただいととてもありがたいという意見があった。
- 川田：(生徒指導分科会では)挨拶の大切さについて、小学校では「元気のよさ」、中学校では「挨拶の意義」についての指導が大切だと感じた。挨拶は地域のつながりを深めることができる。それによって犯罪の防止にもつながる。今後も挨拶の意義や大切さについて指導していただき、よりよい采女地区になってほしいと願っている。

- (2) 2学期の取組（校長から）
- (3) 学校評価について（教務主任から）
- (4) 第4回学校運営協議会に向けて（教頭から）
- (5) その他

○新井：今回は、「育てたい子ども像」について、小中の教員同士で考えることが大切であると考え、小中連携研修の分科会で話し合う場を設定した。話合いの中では、采女地区の子どもの特徴として「教室の中では賑やかだが、外へ出るとおとなしい子どもたち」という意見もあった。そのような子どもたちに「仲間とともに助け合いながら自信をつけてほしい、高めてほしい」と考えている。いろいろな場へ出て発表するなどの経験をたくさん積んでいける場をつくってきたい。

## 5 閉会